

## 企画講座

### はじめての祭祀舞

講師 千種 清美 祭祀舞継承「美鈴の会」同人・文筆家

祭祀舞とは、神社などで披露される舞のこと。

千早に緋袴を身に付けた巫女が厳かに舞う姿は女性にとって憧れです。

祭祀舞は神に捧げるために作舞された日本の伝統文化。

格式が高いと思いがちですが、楽の音色に合わせて、ゆったりと身体を動かすため、性別や年齢に関係なく舞うことができます。

自然と体幹が鍛えられ、姿勢が良くなる上、清々しい気持ちにもなるのも神に捧げる舞だからでしょう。

月に一度、心も体もリフレッシュいたしましょう。

講師は伊勢神宮元楽長の中口幸七先生に指導を受けている祭祀舞継承「美鈴の会」同人の千種清美さん。

「日本人と舞」についての講義と、神社本庁制定祭祀舞「豊楽舞」を習ってみませんか。(動きやすい服装で靴下をお持ちください)

日時 はじめての祭祀舞④ 6月7日(木) 18:30~20:00

はじめての祭祀舞⑤ 7月17日(火) 18:30~20:00

参加費 各回 会員 800円 ビジター 1,300円 ※申し込みは1回ずつ受け付けます。

場所 五十鈴塾右王舎 定員 20名

### 伊勢参宮名所図会を読む

『伊勢参宮名所図会』は、寛政9年(1797)に京都・大阪の版元から刊行された伊勢参宮の案内書で、数ある案内記や道中記の中でも最も詳しい決定版ともいえるものです。京の三条大橋を起点に、伊勢に向かう各々の街道風景、宿場や名所旧跡、また伊勢周辺部や伊勢神宮の祭祀・遷宮などが絵入りで紹介されています。当時は案内書などによって伊勢の情報が全国に伝えられ、豊富な予備知識を蓄えて伊勢参宮に旅立ったようです。

岡野先生のやさしいご指導で、楽しみながら読んでいきましょう。もちろん途中からの参加希望も大丈夫、岡野先生が今までのお話もご紹介しつつ進めてまいります。

### 「伊勢参宮名所図会」を読む⑮

講師 岡野 友彦 皇學館大学文学部長

寛政9年(1797)に刊行された伊勢参宮の案内書『伊勢参宮名所図会』を読み解いていくシリーズもついに最終回前の第15回目。

前回積み残しにした歌占から始まり、三津・神社・大湊、そして二見をめぐる。

くずし字や変体かなが読めるようになりたい方、大歓迎!

日時 6月18日(月) 13:30~15:00 参加費 会員 800円 ビジター 1,300円

場所 五十鈴塾右王舎 定員 30名

### 暮らしの中の身体づくり

講師 久志本 忠彦 くしも整形外科病院院長・医学博士・スポーツクター

腰痛を経験したことがないという方はどれくらいいるでしょうか?

日本整形外科学会の調査によると、日本で腰痛の人は約3000万人いると推計され、約4人に1人が悩まされていることとなります。

男性は1番目、女性は肩こりに次いで2番目に訴えが多い症状で、その数は増加傾向にあるそうです。

しかし、原因を特定できる腰痛は全体の約15%で、残りの約85%は原因を特定しにくい腰痛です。

そこで今回、医学博士・スポーツクターの久志本先生にお越しいただき、腰痛が起こる仕組みや対処法など、憎き腰痛を日常の生活の中でも予防・軽減・改善できるように実践も交えてお話いただきます。腰痛でお悩みの皆さん、全員集合!

日時 6月28日(木) 13:30~15:00 参加費 会員 900円 ビジター 1,400円

場所 五十鈴塾右王舎 定員 20名

### 遷宮上人慶光院の話

講師 山中 一孝 豆腐庵山中代表取締役

五十鈴塾から神宮の方向に向かうと右側に白壁が続く立派な門構えの建物が見えてきます。

門が閉ざされていて中は見られませんが、由緒ありげな高い屋根、大きな土蔵など一体何なのか、誰がお住まいなのか興味は尽きません。

実はこれは江戸時代、慶光院という尼寺だったのです。それもととも格式の高いお寺で朝廷から紫の衣を着ることを許され、慶光院の縮旨を賜っています。

それはこのお寺の尼僧が神宮が荒廃し、遷宮もままならなかった時代に、力を尽くして遷宮を復活させた功績によるものです。

それも初代だけではなく何代にもわたって尽力してきたのです。私は禁忌とされた神宮の御遷宮になぜ尼僧が関係できたのでしょうか?

偉大なる女性の力を山中先生にじっくりと語っていただきます。

日時 7月3日(火) 18:30~20:00 参加費 会員 800円 ビジター 1,300円

場所 五十鈴塾右王舎 定員 30名

### ハーブ石鹸作りに挑戦

講師 楠川 とみか ハーブ研究者・日本アロマテラピーアドバイザー

暑い夏はハーブの香りが漂ってくるだけで涼しさを感じられることも多いですね。

元々が葉や料理の香りづけ、保存などの効果がある草や木の葉なので体に良いもの、今回は香りの高いミントやラベンダー、カモミールで石鹸を作ります。

私だけのオリジナル、ちょっと楽しいですね。その後はやっぱり美味しいハーブティでリラクゼーション、楠川先生のちょっといいハーブのお話しもあります。

(エプロンをお持ちください)

日時 7月6日(金) 13:30~15:30 参加費 会員 2,300円 ビジター 2,800円(材料費含む)

場所 五十鈴塾右王舎 定員 20名限定

### 夏の宵

講師 爪橋 静香 舞台装飾・空間美術・茶道・華道・和裁・陶芸教室主宰

暑さも頂点を迎える七夕の夜、しかし梅雨時でもあります。

なのに星祭りとは?と疑問に思いますが、実は旧暦でいいますと今年の七夕は8月17日、雨はほとんど降らず天の川もはっきり見えます。

行事も新暦になるといろいろと不都合なことも多いのです。しかしそんなことを言っても仕方がないので七夕の次の宵に夏の宵の楽しみを見つけましょう。

今年はどんな花材が用意されるでしょう? 夏に相応しい涼しげなお菓子でお茶をいただくのも優雅ですね。(懐紙・花包み・花切り鉄・タコルなどをお持ちください)

日時 7月8日(日) 18:30~20:00 参加費 会員 1,700円 ビジター 2,200円(茶菓代・花材費含む)

場所 五十鈴塾左王舎 定員 20名

### 風日祈宮と風宮

講師 音羽 悟 神宮司庁広報室広報課課長

「神風の伊勢の国にもあらましをなにしか来けむ君もあらなくに」万葉集 大伯皇女が弟の天津皇子を喪った時の哀惜の歌です。

神風は伊勢の国の枕詞、それは神が吹かせる風のことなのかもしれません。風がないと植物は炭酸ガスの交換ができなくなって生育しません。

5月14日に両宮では「風日祈祭」という、雨風が適度にあって作物が順調に育つよう祈るお祭りがおこなわれます。古代から引き継がれるお祭りで、

まさしく太陽と雨と風が万物を育むということを象徴します。それほど五穀豊穰に大切な風なので、内宮には風日祈宮、外宮には風宮があります。

両宮とも元は末社の一つであって、ある出来事から別宮に昇格したそうです。今回は森羅万象のひとつ、風を祀るお宮についてのお話しです。

日時 7月9日(月) 13:30~15:00 参加費 会員 800円 ビジター 1,300円

場所 五十鈴塾右王舎 定員 30名

### 漢字の旅「金文「曲・流・堂」と杜甫の夏」~高先生に学ぶ漢字は面白い~

講師 高 潤生 書道家・篆刻家・現代印作家

漢字はいつどのようにして生まれたのでしょうか。

今、残っている一番古い漢字は甲骨文字(亀の甲羅や動物の骨に刻まれた漢字)と金文(青銅器に鑄造された刻まれた文字)です。

甲骨文字は古い記録、金文は青銅器の銘文です。漢字は仮名やローマ字と違って一字一字が意味や由来をもっているのです。

私たちが日頃使っている漢字にどんな意味があるのか、違った角度から見直してみると漢字の面白さ、楽しさが見えてきます。

今回、注目する漢字は金文「曲・流・堂」。夏の過ごし方は人によってさまざまですが、唐代の人々はどのように過ごしたのでしょうか。

杜甫の「江村」という詩を鑑賞しながら、成都郊外に住む晩年杜甫の夏の生活の一端をうかがいましょう。

詩中の文字「曲・流・堂」の由来を金文から探求し、詩句の理解を深め、そして金文を用いて、のどかな詩のイメージの文字画を書いてみましょう。

日時 7月10日(火) 13:30~15:00 参加費 会員 800円 ビジター 1,300円

場所 五十鈴塾右王舎 定員 30名



### 芭蕉と三重

講師 坂口 緑志 「年輪」代表・俳祖守武翁顕彰会会長

松尾芭蕉は、二十九歳で江戸へ下向して以後、故郷伊賀上野へ十二度帰り、伊勢へは生涯に六度参向しています。

伊勢への参向のうち、三度は伊賀上野在住の二十歳代の頃で、後の三度は、四十一歳の「甲子吟行」の途次、四十五歳の「笈の小文」の旅、

さらに四十六歳の「奥の細道」の旅を終えた後、式年遷宮を拝まんと訪ねた三度の旅です。

西行を慕い旅を重ねた芭蕉の伊賀、伊勢を中心とする三重での足跡を、そこで詠まれた作品を交え辿ってみましょう。

日時 8月3日(金) 13:30~15:00 参加費 会員 800円 ビジター 1,300円

場所 五十鈴塾右王舎 定員 20名

### 伊勢ゆかりの刀剣

講師 千種 清美 文筆家・皇學館大学非常勤講師

刀剣というと、鋭利な武器、武士の魂といわれ、伊勢や私たちの生活とは関わりが薄い様に感じますが、お祭りや人生儀礼の中でも大事にされてきた

守り刀でもありました。三重テレビ特別番組「宝刀」の脚本執筆のため、刀剣を切り口に調べると、三種の神器の一つになっている草薙剣は倭姫命が

日本武尊に授けたものと伝わり、また伊勢神宮の式年遷宮の御装束神宝で調えられる太刀と鉾など、伊勢神宮にもゆかりが深いものでした。

明和町の坂本一号古墳から出土した金銅装頭椎大刀や伝統行事・御頭神事での「斬り祓い」なども含め、日本の刀剣がもつ精神文化についてみていきましょう。

日時 8月6日(月) 13:30~15:00 参加費 会員 800円 ビジター 1,300円

場所 五十鈴塾右王舎 定員 30名

### 夏の星見と火星大接近

講師 毛利 勝廣 名古屋科学館主任学芸員・学術博士

今年の夏の星空には例年の七夕の織姫や彦星に加えて、西から金星、木星、土星、大接近中の火星が勢揃いしています。

晴れたらレーザーで夏の星座をたどったり、望遠鏡で惑星たちを次々とご覧いただきたいと思います。

火星は2年2ヶ月ごとに地球との距離が近くなる「接近」をします。この接近距離は火星の軌道がはっきりとした楕円なので倍近くも変わります。

今年は15年ごとに巡ってくる最も近いところで並ぶ大接近です。純粋に距離だけを見ると7月31日が最接近となりますが、宵空での観望好機は

およそ1ヶ月後からとなります。今回はちょうどその観望好機に日程を設定できました。お楽しみに。

日時 8月24日(金) 18:30~20:30 参加費 会員 1,100円 ビジター 1,600円(お菓子付き)

場所 五十鈴塾右王舎 定員 30名 ※お菓子は講座に合わせて作っていただく五十鈴茶屋特製菓子です。

### 楽しい俳句

講師 石井 いさお 俳人協会三重県支部長・煌星俳句会主宰

わずかに17文字にいろんなことを詠みこむ俳句。筆記用具さえあればいつでもどこでも楽しめる手軽な趣味。

難しいことをいえば貴族社会で楽しまれていた連歌から始まり、俳諧となり、芭蕉が芸術にまで高めた究極の短詩です。

これを生み出したのが日本人であることは世界に誇るべきことです。

日本語のリズムは知らず知らず5・7・5になっているといわれます。つまり誰もが俳句を作る下地は持っているのです。

いまや世界の人々が作る俳句、一度ぜひ作ってみてください。石井先生がわかりやすくノウハウを教えてください。

期日 6月27日(水)・7月25日(水)・8月22日(水) 時間 各回10:00~12:30 定員 30名

参加費 各回 会員 1,500円 ビジター 2,000円